

新聞社説における冒頭文・末尾文の日中対照研究： 呼応状況及び見出しとの関連性をめぐって

単, 艾婷
九州大学大学院地球社会統合科学府地球社会統合科学専攻

<https://doi.org/10.15017/1854975>

出版情報：地球社会統合科学研究. 7, pp.69-79, 2017-09-25. 九州大学大学院地球社会統合科学府
バージョン：
権利関係：

新聞社説における冒頭文・末尾文の日中対照研究

—呼応状況及び見出しとの関連性をめぐって—

タン アイ テイ
単 艾 婷

1. はじめに

文章における冒頭は、「建築における基礎工事と同様に、すべてのものがその上に積み重ねられる基礎になり、出発点になるという意味で重要」(時枝1977:52)である。相原(1984)は文章において冒頭が重視される理由として、「1. それが文章全体の性格や方向を規制する。2. 冒頭の読者に与える効果や影響が大きい」(pp.144-145)と挙げている。つまり冒頭は、文章全体の構成や展開を方向付けるものであると共に、読み手を惹きつけ、先を読みたいという気を起こさせる働きがある。特に情報過多の現代社会において、読者に最後まで読んでもらうために最も工夫をしなければならない箇所であると考えられる。文章の末尾も同じく重要で、良い末尾は読み手にインパクトを与え、文章全体の構成に対するまとまりや一体感を保つ役割を果たしている。

国語学や日本語学では、「冒頭」(市川1978、永野1983、井上1987、長坂1994)以外に、「書き出し」(林1983、鈴木1989、木坂1990、西田1992、李2001、半澤2005)、「書き起こし」(永野1986)の術語も見られる。また「書き出し・冒頭」の両方を用いた場合もある(相原1984)。冒頭と書き出しをはっきり区別せず使われる場合がほとんどであるが、冒頭と書き出しを区別し、書き出しのない文章はないが、冒頭のない文章はありうるとする考え方もある(時枝1977)¹。「末尾」(半澤2005)についても、「結尾」(市川1978、井上1987)、「結び」(林1983、鈴木1989、木坂1990、西田1992)や「書き納め」(永野1986)などの用語が用いられる。

本稿では、「冒頭」と「末尾」という術語を用いる。日本語の新聞社説における冒頭段落の文数は中国語の新聞社説との差異が見られたため、冒頭の始まりの1文(冒頭文)と末尾の終わりの1文(末尾文)に限定し、日中両言語の新聞社説においてそれらの呼応状況及び見出しとの関連性を解明する。

2. 先行研究

これまで冒頭・末尾に関する研究は、主に冒頭・末尾の機能、形態や類型に重点をおいて多くなされてきた(市川1978、林1983、相原1984、永野1986、鈴木1989、西田1992、長坂1994、李2001、メイナード2005など)。本研究との関連では、冒頭・末尾の関連性に着目した研究に木坂(1990)、石黒(2004)がある。木坂(1990)は、従来の冒頭・書き出し論の諸説を紹介し、新聞の随想的文章「天声人語」の書き出しと結びとを取り上げ、次の6つのパターンを示した。(1)「書き出し(口上)、結び(概要と感想)」、(2)「書き出し(枕としての歌の引用)、結び(枕に対応した結尾としての唱歌の引用)」、(3)「書き出し(話題・課題)、結び(話題・意見)」、(4)「書き出し(枕としての物語の引用)、結び(感想)」、(5)「書き出し(話題提起)、結び(意見)」、(6)「書き出し(枕としての唱歌の引用)、結び(結論)」である。新聞随想のような整った結構における書き出しと結びとは、文章技法の練磨に大いに参考になることを示唆している。

石黒(2004)は、文章表現の技術において、文章の典型的な終わり方の一つに書き出しの内容に戻るものがあると言う。この終わり方は、忘れかけていた書き出しを思い起こさせ、文章全体にまとまりを与えるという点でたいへん優れた終わり方であると述べ、志賀直哉『城の山崎にて』の冒頭と結末を分析し、冒頭と結末を呼応させることは、文章全体のまとまりを感じさせ、その文章の構成と内容を読者に最後にもう一度かみしめさせることになり、有効な文章構成法の一つであると指摘している。さらに対応関係については、「似たような文型、似たような形式の語彙、似たような概念の語彙によって保証される。似た部分が多いほど、強い対応関係が意識される」(p.80)と主張している。

また、冒頭とテーマとの関連性についての研究として永野(1983)がある。永野(1983)では、冒頭とその展開の観点から見たテレビコラムの叙述の類型を「冒頭にテーマの明示されているもの」と「冒頭にテーマの明示されぬもの」に大別し、さらに「冒頭にテーマの明示さ

れているもの」の下位区分を「列挙型」、「対比型」、「展開型」、「演繹型」、「補足型」に分類し、「冒頭にテーマの明示されぬもの」の下位区分を「枕型」、「落ち型」に分類し、テレビコラムの展開方法を分析している。

先行研究の問題点としては、冒頭・末尾の機能、形態、種類などを分析したものは多く、冒頭と末尾との関連性を考察したものは少ないことが挙げられる。木坂(1990)と石黒(2004)は冒頭・末尾の関連性について分析を行っているが、詳細な論述が見られなかった。また、冒頭・末尾と見出しとの関連性についての研究は管見の限り見当たらない。そこで、本稿は新聞社説を分析資料とし、その冒頭の始まりの1文(冒頭文)と末尾の終わりの1文(末尾文)を対象として、それらの呼応状況及び見出しとの関連性を分析する。

3. 分析資料と方法

本稿では分析資料として、日中両言語の新聞社説を用いる。論説文の代表とされる社説は、文章の長さがほぼ一定で、取り上げられる素材が広い。また社説は異なる複数の執筆者によって書かれているため、個人の文体の特徴といった弊害も避けることができる。日本語の資料としては『朝日新聞』『読売新聞』『西日本新聞』の社説、中国語の資料としては『新京報』『北京青年報』の各社説を用いる。日本語の新聞社説は1日に2篇、中国語の新聞社説は1日に1篇の場合がほとんどのため、データ数を揃えるために、日本語の社説は2015年4月1日から4月30日の1ヶ月分、中国語の社説は2015年4月1日から5月31日の2ヶ月分とした。詳細は表1に示す通りである。

表1 分析資料の内訳

社説の言語	社説掲載の新聞名	期間	社説の篇数 ²
日本語	朝日新聞	2015. 4. 1 ～ 4.30	56
	読売新聞		54
	西日本新聞		48
中国語	新京報	2015. 4. 1 ～ 5.31	61
	北京青年報		61

分析方法としては、冒頭文と末尾文の呼応状況について、石黒(2004: 80)で述べた「似たような文型、似たような形式の語彙、似たような概念の語彙によって保証される。似た部分が多いほど、強い対応関係が意識される」という基準を参考に、同じ文型や語彙だけではなく、似たような文型や語彙が用いられる場合も、冒頭文と末尾文は対応していると判断する。また、冒頭文・末尾文

と見出しとの関連性を見出すために、永野(1983)を参照として、(a)「見出しが冒頭文に明示されているもの」、(b)「見出しが末尾文に明示されているもの」、(c)「見出しが冒頭文にも末尾文にも明示されているもの」、(d)「見出しが冒頭文にも末尾文にも明示されていないもの」の4種類に分類して観察する。

4. 分析

4. 1 新聞社説における冒頭文・末尾文の呼応状況

各社説における冒頭文・末尾文は、以下のような3タイプが観察された。

- (A) 冒頭文(事実提示)、末尾文(意見提示)
- (B) 冒頭文(事実提示)、末尾文(意見提示)
- (C) 冒頭文(問い掛け)、末尾文(答え)

以下、順に見ていく。なお本稿では、「事実提示」と「意見提示」を以下のように定義する。「事実提示」とは、話題、出来事や報告などの書き手の意見、主張が含まれていない客観的な文である。「意見提示」とは、書き手の見解、評価、感想、希望、要求などの主観的な態度が表現されている文である。

4. 1. 1 日本語の冒頭文・末尾文の呼応状況

- (A) 冒頭文(事実提示)、末尾文(意見提示)

(1)	冒頭文	首相官邸の屋上に、小型無人ヘリコプター「ドローン」が落下しているのが見つかった。	(読売 2015/ 04/24-2)
	末尾文	一定のルールの下に、ドローンの有効活用を図っていきたい。	
(2)	冒頭文	政府などの公文書を保存、公開する国立公文書館。	(朝日 2015/ 04/20-2)
	末尾文	そのための公文書館であるとの原則は、決して忘れてはならない。	

例(1)(2)は、冒頭文が「事実提示」であり、末尾文が「意見提示」の例である。冒頭文は出来事や話題を簡潔に取り上げ、末尾文は希望や警告を発している。例(1)の冒頭文では、「首相官邸の屋上にドローンが落下しているのが見つかった」という出来事を取り上げ、これに対して末尾文では「一定のルールの下に、ドローンの有効活用を図っていきたい」という希望を示しながら、冒頭文と呼応させている。例(2)の冒頭文では、「国立公文書館」という話題を冒頭に置いて主題を提示し、末尾文はそれに対する意見を述べている。

(B) 冒頭文 (意見提示)、末尾文 (意見提示)

(3)	冒頭文	教科書は、国の広報誌であってはならない。	(朝日 2015/ 04/07-2)
	末尾文	教委は教育の視点でこそ選んでほしい。	
(4)	冒頭文	働き過ぎによって命を落とす人をなくすため、長時間労働の実効性ある是正策につなげることが重要である。	(読売 2015/ 04/21-2)
	末尾文	働く人の健康を守る職場作りに向け、官民を挙げた取り組みが求められる。	

例(3)(4)は、冒頭文と末尾文のいずれもが「意見提示」の例である。冒頭文では意見が述べられており、末尾文では意見や希望などがもう一度繰り返されている。例(3)(4)の冒頭文では、それぞれ「教科書は国の広報誌であってはならない」「働き過ぎによって命を落とす人をなくすため、長時間労働の実効性ある是正策につなげることが重要である」という書き手の意見が述べられ、これに対して末尾文はそれらに対応する要望や対策への呼び掛けを發し、冒頭文との呼応が見られた。

(C) 冒頭文 (問い掛け)、末尾文 (答え)

(5)	冒頭文	あの戦争は何だったのか。	(読売 2015/ 04/09-2)
	末尾文	終戦後もなお、安全保障などをめぐり大国との関係に翻弄されてきた、その歴史から考えさせられることもまた多い。	
(6)	冒頭文	危険の芽を即座に摘むことが、いかに大切か。	(読売 2015/ 04/17-1)
	末尾文	再発防止のため、原因究明を急いでもらいたい。	

例(5)(6)の冒頭文は「問い掛け」の形式を取り、末尾文はそれに呼応した「答え」として、意見や希望などを述べている。例(5)(6)の冒頭文は、それぞれ「あの戦争は何だったのか」「危険の芽を即座に摘むことが、いかに大切か」と問い掛け、これに対して末尾文は「終戦後が考えさせられることもまた多い」や「危険を再発防止のため、原因究明」の意見や要望を述べ、冒頭文への答えとなっている。

このように、タイプ(A)では、冒頭文は現在話題になっていることや関連した出来事を紹介し、末尾文はそれらの話題や出来事に対する意見や見解を述べる。タイ

プ(B)では、冒頭文は書き手の意見や見解を提示し、末尾文はその主張を繰り返して強調する。タイプ(C)では、冒頭文は問い掛けの形式で読み手に質問を投げて考えさせ、末尾文はその質問に対する答えとして書き手の意見や見解を述べる。冒頭文と末尾文の呼応によって、社説全体が一つのまとまりになっている。

4. 1. 2 中国語の冒頭文・末尾文の呼応状況

(A) 冒頭文 (事実提示)、末尾文 (意見提示)

(7)	冒頭文	北京时间4月25日14时11分, 尼泊尔境内发生8.1级地震。(北京时间4月25日14时11分に、ネパールで震度8.1の地震があった。)	(北青報 2015/ 04/27)
	末尾文	显然, 此次尼泊尔地震, 以及随之的西藏地震, 是一场跨越国界的全民灾难, 也就需要世界各国行动起来, 共同面对和守护, 全面彰显共渡难关、让爱永生的现代文明之光。(明らかに、今回のネパール地震及び、その後のチベット地震は、国境を超えた大震災であり、困難に直面している世界の人々が共に見守りながら、助け合うことが必要である。) ³	
(8)	冒頭文	昨日, 一组男童受虐的图片在网上风传。(昨日、男の子が虐待された写真がインターネット上で噂になった。)	(新京報 2015/ 04/05)
	末尾文	这才是对孩子负责的态度, 也才能最大程度避免虐童悲剧重演。(これこそ、子供に責任を持つ態度であり、繰り返される児童虐待の悲劇を最大限に避けることができよう。)	

例(7)(8)は、冒頭文が「事実提示」であり、末尾文が「意見提示」の例である。冒頭文は出来事や話題を簡潔に取り上げ、末尾文では意見や見解が示されている。(7)(8)の冒頭文では、それぞれ「ネパールで発生した地震」「男の子が虐待された写真がインターネット上で噂になった」といった出来事の報道である。末尾文では、再び出来事のキーワードを繰り返して本文の概要をまとめ、そのような出来事に対する見解や取るべき対策について言及している。

(C) 冒頭文(問い掛け)、末尾文(答え)

(9)	冒頭文	如何证明自己的婚育状况? (どのように自分の結婚や出産の状況を証明するのか?)	(新京報 2015/05/25)
	末尾文	接下来, 希望有更多的领域、更多的事项也可尝试用承诺制取代繁琐的证明。(次は、もっと多くの分野で、もっと多くの出来事に対して、ややこしい証明の代わりに承諾制度を試みることを望む。)	

例(9)の冒頭文は問い掛けの形式を取り、末尾文はそれに呼応し答えとして、意見や希望などを述べている。(9)の冒頭文では、「どのように自分の結婚や出産の状況を証明するのか」と問い掛け、これに対して末尾文は「承諾制度の試みを望む」と希望を述べ、冒頭文への答えとなっている。

以上のように、中国語の新聞社説にはタイプ(A)「冒頭文(事実提示)、末尾文(意見提示)」、タイプ(C)「冒頭文(問い掛け)、末尾文(答え)」が観察されたが、タイプ(B)「冒頭文(意見提示)、末尾文(意見提示)」、つまり冒頭文は書き手の意見や見解を提示し、末尾文はその主張を繰り返して強調する、というタイプは見られなかった。

4. 2 新聞社説における冒頭文・末尾文と見出しとの関連性

冒頭文・末尾文と見出しとの関連性を見出すために、「(a) 見出しが冒頭文に明示されているもの」、「(b) 見出しが末尾文に明示されているもの」、「(c) 見出しが冒頭文にも末尾文にも明示されているもの」、「(d) 見出しが冒頭文にも末尾文にも明示されていないもの」の4種類に分類し観察する。

4. 2. 1 日本語の冒頭文・末尾文と見出しとの関連性

(a) 見出しが冒頭文に明示されているもの

(太字は筆者による)

(10)	見出し	米国とキューバ 隣国復交へ賢明な一歩	(朝日 2015/04/14-2)
	冒頭文	歴史的な一歩 である。	
	末尾文	その未来を支えるために、日本もできる限り協力の道を探りたい。	

(11)	見出し	首相VS沖縄知事 建設的対話重ねて接点を探れ	(読売 2015/04/18-2)
	冒頭文	政府と沖縄県の立場の隔たりは大きい が、建設的な対話を重ねる中で、接点を探るべきだ。	
	末尾文	政府は、辺野古移設の意義と重要性を地元関係者に粘り強く説明し、理解を広げねばならない。	
(12)	見出し	バンドン演説 首相70年談話にどうつなげる。	(読売 2015/04/23-2)
	冒頭文	「演説」を「談話」に どうつなげていくのか。	
	末尾文	過去の問題を乗り越え、未来志向の関係を築くには、日中双方が歩み寄る 努力が欠かせない。	

例(10)～(12)は「見出しが冒頭文に明示されているもの」の例である。例(10)では、見出しの「隣国復交へ賢明な一歩」が、冒頭文の「歴史的な一歩である」と繰り返し明示されている。例(11)の見出しは「建設的対話重ねて接点を探れ」と述べ、冒頭文の「建設的な対話を重ねる中で、接点を探るべきだ」とほぼ同様の内容で反復されている。また、例(12)の見出しは「首相70年談話にどうつなげる」と問い掛け、冒頭文は「どうつなげていくのか」と明示されている。このように、冒頭文は見出しと同じ言葉あるいは似たような言葉で見出しの内容を明示している。

(b) 見出しが末尾文に明示されているもの

(13)	見出し	中国と世界 新たな大局観育てたい	(朝日 2015/04/19-1)
	冒頭文	成長の道を歩む中国は 一体、どんな国になるのか。	
	末尾文	日米中とも、 新時代に即した大局観を自らの中に育てたい。	
(14)	見出し	裁判員制度 守秘義務も見直し議論を	(西日本 2015/04/03-1)
	冒頭文	来月で導入から6年となる裁判員制度について「 社会に定着していない 」と考える人が65%に達したという。	
	末尾文	守秘義務の見直しも含めて、国民的な議論を深めていきたい。	

(15)	見出し	スカイマーク 空の競争は確保されるか	(西日本 2015/ 04/24-1)
	冒頭文	経営再建中のスカイマーク支援の基本的な枠組みが固まった。	
	末尾文	スカイマークの独立維持は健全な競争環境の確保のために必要だ。	

例 (13) ~ (15) は「見出しが末尾文に明示されているもの」の例である。例 (13) では、見出しの「中国と世界新たな大局観育てたい」が、末尾文で「日米中とも、新時代に即した大局観を自らの中に育てたい」と繰り返し明示されている。例 (14) の見出しは「守秘義務も見直し議論を」と述べ、末尾文では「守秘義務の見直しも含めて、国民的な議論を深めていきたい」のようにほぼ同様の内容で反復し明示されている。また、例 (15) の見出しは「スカイマーク 空の競争は確保されるか」と問い掛け、その答えが末尾文の「スカイマークの独立維持は健全な競争環境の確保のために必要だ」に明示されている。このように、末尾文も見出しと同じ言葉か似たような言葉で見出しの内容を明示している。

(c) 見出しが冒頭文にも末尾文にも明示されているもの

(16)	見出し	山手線支柱倒壊 危険の芽を摘む意識に欠ける	(読売 2015/ 04/17-1)
	冒頭文	危険の芽を即座に摘むことが、いかに大切か。	
	末尾文	再発防止のため、原因究明を急いでほしい。	
(17)	見出し	検定発表 教科書はだれのものか	(朝日 2015/ 04/07-2)
	冒頭文	教科書は、国の広報誌であってはならない。	
	末尾文	教委は教育の視点でこそ選んでほしい。	

例 (16) (17) は「見出しが冒頭文にも末尾文にも明示されているもの」の例である。例 (16) では、見出しの「危険の芽を摘む意識に欠ける」が、冒頭文の「危険の芽を即座に摘むことが、いかに大切か」と繰り返し明示され、また末尾文で「再発防止のため、原因究明を急いでほしい」と呼び掛け、見出しの内容はここでも明示されている。例 (17) の見出しは「教科書はだれのものか」と問い掛け、まず冒頭文の「教科書は、国の広報誌であってはならない」は答えとして明示され、末尾文で「教委は教育の視点でこそ選んでほしい」と執筆者の意見が繰

り返され、見出しの内容が再度示されている。

(d) 見出しが冒頭文にも末尾文にも明示されているもの

(18)	見出し	温暖化対策 地球益に背を向けるな	(読売 2015/ 04/12-1)
	冒頭文	このままでは、イソップ物語「ウサギとカメ」のウサギになってしまうのではないか。	
	末尾文	それが新たなビジネス機会にもつながる。	

例 (18) は「見出しが冒頭文にも末尾文にも明示されていないもの」の例である。「温暖化対策 地球益に背を向けるな」という見出しは、冒頭文の「このままでは、イソップ物語『ウサギとカメ』のウサギになってしまうのではないか」、または末尾文の「それが新たなビジネス機会にもつながる」のいずれにも明示されていないことが分かる。

4. 2. 2 中国語の冒頭文・末尾文と見出しとの関連性

(a) 見出しが冒頭文に明示されているもの

(19)	見出し	速度与激情与玩命 (速度と熱意と命遊び)	(北青報 2015/ 04/13)
	冒頭文	肯定是巧合，就在美国大片《速度与激情7》在中国上映前夜，两辆“超跑”在北京奥运村鸟巢隧道相撞。(きっと偶然であろう。アメリカ映画「ワイルド7」が中国で上映される前夜に、二「スーパーレース」車は北京オリンピックの鳥の巣トンネル内で衝突した。)	
(19)	末尾文	事实上，自从“二环十三郎”被严惩了之后，二环确实消停多了。(実際に、「二環十三郎 ⁴ 」が嚴重に懲罰されてから、二環は確におとなしくなった。)	(北青報 2015/ 004/13)

例 (19) は「見出しが冒頭文に明示されているもの」の例である。見出しの「速度与激情与玩命 (速度と熱意と命遊び)」が、冒頭文の「美国大片《速度与激情7》、两辆“超跑”在北京奥运村鸟巢隧道相撞」と繰り返し明示されている。

(b) 見出しが末尾文に明示されているもの

(20)	見出し	用“个人承诺”取代繁琐的证明 (「個人承諾」でややこしい証明に取って代わる)	(新京報 2015/ 05/25)
	冒頭文	如何证明自己的婚育状况? (どのように自分の結婚や出産の状況を証明するのか?)	
	末尾文	接下来, 希望有更多的领域、更多的事项也可尝试用 承诺制取代繁琐的证明 。(次は、より多くの分野及び出来事に対して、承諾制度でややこしい証明に取って代わることを望む。)	
(21)	見出し	奋斗的青春最美丽 (奮闘の青春は最も美しい)	(新京報 2015/ 05/25)
	冒頭文	今天是五四青年节, 也是五四运动96周年纪念日。(今日は青年の日で、五・四運動の96周年の記念日である。)	
	末尾文	理想是人生的灯塔, 信念是前行的航标: 青春的美丽, 正是奋斗之美丽! (理想は人生の灯台、信念は航海の標識: 青春の美しさは奮闘の美しさそのものである。)	

例(20)(21)は「見出しが末尾文に明示されているもの」の例である。例(20)では、見出しの「用“个人承诺”取代繁琐的证明(「個人承諾」でややこしい証明に取って代わる)」が、末尾文で「用承诺制取代繁琐的证明(承諾制度でややこしい証明に取って代わる)」と反復して明示されている。また、例(21)の見出しは「奋斗的青春最美丽(奮闘の青春は最も美しい)」と述べ、末尾文では「青春的美丽, 正是奋斗之美丽(青春の美しさは奮闘の美しさそのものである)」のようにほぼ同様の内容で繰り返し明示されている。このように、末尾文も見出しと同じ言葉か似たような言葉で見出しの内容を明示している。

(c) 見出しが冒頭文にも末尾文にも明示されているもの

(22)	見出し	提网速降网费, 高校可以例外? (インターネットのスピード上げ・料金下げについて、大学は例外できる?)	(新京報 2015/ 05/17)
------	-----	--	-------------------------

(22)	冒頭文	网速慢、收费贵, 这样的抱怨在高校尤为明显。(インターネットのスピードは遅いが、ネット代は高い。このような苦情は大学で特に著しい。)	(新京報 2015/ 05/17)
	末尾文	以何种态度解决学生校园宿舍上网问题, 可以检验一所大学是否有现代办学理念和服务学生的意识。(学生のキャンパスや寮でのインターネット問題を解決する態度は、大学の学生への教育理念及びサービス精神があるかどうかを検証することができる。)	

例(22)は「見出しが冒頭文にも末尾文にも明示されているもの」の例である。見出しの「提网速降网费, 高校可以例外?(インターネットのスピード上げ・料金下げについて、大学は例外できる?)」が、冒頭文の「网速慢、收费贵, 这样的抱怨在高校尤为明显(インターネットのスピードは遅いが、ネット代は高い。このような苦情は大学で特に著しい)」と繰り返し明示され、また末尾文で「以何种态度解决学生校园宿舍上网问题, 可以检验一所大学是否有现代办学理念和服务学生的意识(学生のキャンパスや寮でのインターネット問題を解決する態度は、大学の学生への教育理念及びサービス精神があるかどうかを検証することができる)」と書き手の主張が繰り返され、ここでも見出しの内容が明示されている。

(d) 見出しが冒頭文にも末尾文にも明示されていないもの

(23)	見出し	人民开始“点菜”了(人民は「料理を注文」し始めた)	(新京報 2015/ 05/18)
	冒頭文	在众多便捷酒店品牌中, “桔子水晶”不是最具知名度的一个, 这几天却成为曝光率颇高的媒体热词。(多くのチェーンホテルの中、「桔子水晶」は最も有名ではないが、この数日間マスメディアに高頻度に報道されている。)	
	末尾文	一定有更多的基层公务员越来越明白这个道理。(もっと多くの公務員がこのことが分かってくるだろう。)	

例(23)は「見出しが冒頭文にも末尾文にも明示されていないもの」の例である。「人民开始“点菜”了(人民は「料理

理を注文」し始めた)」という見出しは、冒頭文の「在众多便捷酒店品牌中，“桔子水晶”不是最具知名度的一个，这几天却成为曝光率颇高的媒体热词（多くのチェーンホテルの中、「桔子水晶」は最も有名ではないが、この数日間マスメディアに高頻度に報道されている）」、または末尾文の「一定有更多的基层公务员越来越明白这个道理（もっと多くの公務員がこのことが分かってくるだろ

う）」のいずれにも明示されていなかった。

5. 結果と考察

5. 1 分析結果

各新聞社説における冒頭文・末尾文と見出しとの関連性についての分析結果を以下の表2に示す通りである。

表2 日中の新聞社説における冒頭文・末尾文と見出しとの関連性

見出し	日本語			中国語	
	朝日	読売	西日本	新京報	北青報
(a) 冒頭文に明示	2 (3.57%)	18 (33.33%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	1 (1.64%)
(b) 末尾文に明示	26 (46.43%)	9 (16.67%)	29 (60.42%)	36 (59.02%)	41 (67.21%)
(c) 冒頭文にも末尾文にも明示	1 (1.79%)	4 (7.41%)	0 (0.00%)	1 (1.64%)	0 (0.00%)
(d) 冒頭文にも末尾文にも明示されない	27 (48.21%)	23 (42.59%)	19 (39.58%)	24 (39.34%)	19 (31.15%)
合計	56 (100%)	54 (100%)	48 (100%)	61 (100%)	61 (100%)

表2から分かるように、見出しは(b)「末尾文に明示されるもの」と(d)「冒頭文にも末尾文にも明示されないもの」が最も多く、(a)「冒頭文に明示されるもの」と(c)「冒頭文にも末尾文にも明示されるもの」は非常に少ない。ただ『読売』では、(a)「冒頭文に明示されるもの」(33.33%)が多く観察された。日中両言語の新聞社説の見出しは「意見表明」に関する表現が多いと単(2016:38)は指摘した。そのため、見出しは(b)「末尾文に明示されるもの」が多いことが考えられる。また、見出しは(d)「冒頭文にも末尾文にも明示されないもの」が多く見られた理由として、末尾文の直前(特に文章の8割進んだ箇所⁵⁾)に明示されることが挙げられる。

5. 2 まとめと考察

4. 1節では、冒頭文・末尾文の呼応状況として、おおよそ3つのパターンが観察された。(A)冒頭文(出来事・話題)、末尾文(意見・見解)、(B)冒頭文(意見・見解)、末尾文(意見・見解)、(C)冒頭文(問い掛け)、末尾文(意見・見解)である。(A)では、冒頭文は現在話題になっていることや関連した出来事を紹介し、末尾文はそれらの話題や出来事に対する意見・見解を述べる。(B)では、冒頭文は書き手の意見・見解を提示し、末尾文はその主張を繰り返して強調する。(C)では、冒頭文は問い掛ける形で読み手に質問を投げて考えさせ、末尾文はその質

問に対する答えとして書き手の意見・見解を述べる。冒頭文と末尾文の呼応によって、社説全体が一つのまとまりになる。日中両言語の相違点として、日本語の新聞社説は(A)(B)(C)の3タイプすべて見られたのに対し、中国語の新聞社説は、タイプ(A)(C)は観察されたが、タイプ(B)「冒頭文(意見提示)、末尾文(意見提示)」、つまり冒頭文は書き手の意見や見解を提示し、末尾文はその主張を繰り返して強調する、というのが見られなかった。

4. 2節では、冒頭文・末尾文と見出しとの関連性の観点からは、見出しが(b)「末尾文に明示されるもの」と(c)「冒頭文にも末尾文にも明示されないもの」が最も多く、(a)「冒頭文に明示されるもの」と(d)「冒頭文にも末尾文にも明示されるもの」は非常に少ないことが分かった。日本語の新聞社説の見出しは二つの部分からなっている。前半は話題で、後半はそれについての意見や見解を示すパターンが多い。見出しの前半部分は冒頭文で話題を提示する。後半部分は末尾文で意見や見解を述べ、前半部分と呼応させる。メイナード(1997)によると、このような見出しの構造はテーマ・レーマの概念から考えることができ、つまりあるテーマを前半の話題で限定し、それに呼応する重要情報が後半でレーマとして伝えられるわけであるという。以下の例(24)(25)を参照されたい。

24)	見出し	官邸に無人機 悪用の防止を急げ	(朝日 2015/04/24-1)
	冒頭文	首相官邸の屋上で、小型無人飛行機(ドローン)が見つかった。	
	末尾文	各国や国際機関とも連携し、悪用の防止を急いでほしい。	
25)	見出し	裁判員制度 守秘義務も見直し議論を	(西日本 2015/04/03-1)
	冒頭文	来月で導入から6年となる裁判員制度について「社会に定着していない」と考える人が65%に達したという。	
	末尾文	守秘義務の見直しも含めて、国民的な論議を深めていきたい。	

例(24)では見出しの前半「官邸に無人機」は話題として、冒頭文「首相官邸の屋上で、小型無人飛行機」に明示され、見出しの後半「悪用の防止を急げ」は話題に対する意見として、末尾文「悪用の防止を急いでほしい」に繰り返し明示されている。また、例(25)では見出しの前半「裁判員制度」は話題として、冒頭文に明示され、見出しの後半「守秘義務も見直し議論を」は、話題の見解として、末尾文で「守秘義務の見直しも含めて、国民的な論議を深めていきたい」と主張が反復されている。このように、見出しの前半部分は冒頭文で話題を提示し、後半部分は末尾文で意見や見解を述べ、前半部分と呼応させる。

一方、中国語の新聞社説の見出しは、二つの部分からなるものは少なく、ほとんど一つの部分であり、社説の話題及びそれに対する意見・見解を提示されている。そのため中国語の社説でも、見出しの内容は末尾文で繰り返し明示されることが多い。

5. 3 冒頭文・末尾文の特徴：日本語の冒頭重視型と中国語の末尾重視型

日中両言語の新聞社説における冒頭文・末尾文を分析することによって、「日本語の冒頭重視型と中国語の末尾重視型」という特徴を挙げることができる。日本語の新聞社説には、次のような冒頭文が見られる。

- 1) 歴史的な一歩である。(朝日2015/04/14-2)
- 2) 次につながる有意義な会談だったのか。(西日本2015/04/18-2)
- 3) 「生」と「命」。(朝日2015/04/24-2)

- 4) よくまあ次から次へと出てくるものだ。(朝日2013/11/06)
- 5) 改めて、言う。(朝日2014/01/17)
- 6) どうも空しさが漂う。(朝日2014/04/17)

これらの冒頭文だけ見ると、何を言いたいかさっぱり分からず、文章の始まりというより、見出し(または何らかの文)に続いているかのような印象を受ける。これは翻って、読者にとっては強いインパクトがある。新聞社説は固い主題と思われるが、読み手の興味を惹くために様々な工夫が施されており、その傾向が冒頭文にも現れている。

それに対して、中国語の冒頭文は報道記事のような傾向が強く、読み手の興味を惹く工夫は見られなかった。しかし末尾文では、多様なレトリック表現を用いることで意見・見解を示す。例えば、以下のいくつかの例を参照されたい。なお下線部は筆者によるものである。

- 7) 为保护鱼类生息和河流生态, 我们必要时须拿出“壮士断腕”的勇气。(新京報2015/04/10)
- 7) 魚類の生息や河川生態を保護するために、必要な時は、思い切った行動を取らなければならない。
- 8) 反贪腐要打虎拍蝇, 推进改革则要整肃庸政懒政的“寄生虫”。(北青報2015/04/14)
- 8) 腐敗を防ぐために、「トラを打ち、ハエを叩く」べき、改革を促進するために、政治の「寄生虫」を退治しなければならない。
- 9) 该出手时出手, 该休息时休息, 该做课时做功课, 这才是正解。(北青報2015/04/21)
- 9) やる時にちゃんとやる、休む時にちゃんと休む、反省する時にちゃんと反省する。これこそ正解である。

例7)と例8)は比喩の例である。「壮士断腕」は昔話からの四字熟語であり、壮士は毒蛇に腕を噛まれた時、毒が全身に回らないように腕を切り落としたという意味である。この本来の意味から、「物事は躊躇せず即座に判断すべきだ、また勇気のある行動や思い切った行動」という意味に転じた。社説の内容から、それぐらいの覚悟を持って「魚類の生息や河川生態を保護する」という書き手の強い主張が伝わり、印象的である。また例8)では、民衆のために何も行動を取らない幹部のことを「寄生虫」に喩え、腐敗を防ぐために「トラを打ち、ハエを叩く」ようにこれらの幹部を取り締まる、という厳しい意見が示される。さらに例9)では、「该出手时就出手(手を出すべき時は手を出せ)」は中国90年代に大変

流行った歌の歌詞であるが、この一文を読めば歌詞が自然に浮かび、これを社説の末尾文として配置することで読み手に歌詞との関連を考えさせる効果があり、書き手の意見も非常に印象に残る。

このように、日本語の冒頭重視型でも中国語の末尾重視型でも、新聞社説のような固い素材また紙面の制限のある中で、なるべく読み手の興味を惹きつけるために様々な工夫が凝らされることが分かるであろう。

6. おわりに

本稿では日本語と中国語の新聞社説における冒頭文、末尾文を取り上げ、それらの呼応状況及び見出しとの関連性について分析を行った。以下にその結果から明らかになったことをまとめる。

- ① 冒頭文・末尾文の呼応状況に関しては、3つのタイプが観察された。(A)冒頭文(事実提示)、末尾文(意見提示)、(B)冒頭文(意見提示)、末尾文(意見提示)、(C)冒頭文(問い掛け)、末尾文(答え)である。日中両言語の相違点として、日本語の新聞社説は(A)(B)(C)の3タイプすべて見られたのに対し、中国語の新聞社説はタイプ(A)(C)は観察され、タイプ(B)「冒頭文(意見提示)、末尾文(意見提示)」、つまり冒頭文は書き手の意見や見解を提示し、末尾文はその主張を繰り返して強調する、というのは見られなかった。
- ② 冒頭文・末尾文と見出しとの関連性については、見出しは(b)「末尾文に明示されるもの」と(d)「冒頭文にも末尾文にも明示されないもの」が最も多く、(a)「冒頭文に明示されるもの」と(c)「冒頭文にも末尾文にも明示されるもの」は非常に少ないことが分かった。新聞社説の見出しは「意見提示」に関する表現が多いため、見出しは(b)「末尾文に明示されるもの」が多いことが考えられる。また、見出しに(d)「冒頭文にも末尾文にも明示されないもの」が多く観察された理由として、末尾文の直前(特に文章の8割進んだ箇所)に明示されることが多いことが挙げられる。
- ③ 新聞社説の見出しは二つの部分からなっている。前半は話題で、後半はそれについての意見や見解のパターンが多い。見出しの前半部分は冒頭文で話題を提示し、後半部分は末尾文で意見や見解を述べ、前半部分と呼応させる。
- ④ 新聞社説のように固い素材また紙面の制限のある中で、なるべく読み手の興味を惹き付けるために、日本語では冒頭重視型で、中国語では末尾重視型で工

夫が施されていると言える。

今回は冒頭文と末尾文だけを分析対象として取り上げたが、今後冒頭段落と末尾段落も視野に入れて分析したい。

-
- ¹ 時枝は例として、「虞美人草」やトルストイの「アンナ・カレーニナ」などを冒頭の無い小説として挙げている。冒頭と書き出しとを区別して、前者を帽子に例え、後者を頭に例えている(時枝1977:63)。
 - ² 『朝日』『読売』『西日本』から当初収集したのは、それぞれ58篇、57篇、51篇であったが、各社説の分量を平均にするため、通常より非常に長いと見受けられるものは分析対象から外した。
 - ³ 本稿では、『新京報』と『北青報』における中国語の例文の日本語訳は全て拙訳である。翻訳する際に、できるだけ直訳するように心がけた。また、中国語が分かる日本語ネイティブ複数名にチェックを受けた。
 - ⁴ 「二環十三郎」はオートレース選手の名前である。また「二環」は、第二環状自動車道のことを指す。
 - ⁵ これはメイナード(1997:134)で述べた結果を参照した。今後の課題として検証する。

参考文献

- 相原林司(1984)『文章表現の基礎的研究』明治書院
- 李貞旼(2001)「文章構造の日韓対照研究—新聞の社説における書き出しを対象として—」『言語文化と日本語教育』21, pp.96-109.
- 李貞旼(2008)『韓日新聞社説における「主張のストラテジー」の対照研究』ひつじ書房
- 石黒圭(2004)『よくわかる 文章表現の技術Ⅱ』明治書院
- 市川孝(1978)『文章論概説』教育出版
- 伊藤誓子(1996)「論説文の文末述部における『段』統括機能」『国文目白』35, pp.203-211.
- 井上ひさし(1987)『自家製文章読本』新潮社
- 王其莉(2016)『判断のモダリティに関する日中対照研究』ひつじ書房
- 沖森卓也・蘇紅[編集](2014)『中国語と日本語』朝倉書店
- 木坂基(1990)「書き出しと結びの型—基本と応用」『国文学解釈と教材の研究』35(15), pp.31-37.
- 木戸光子(2008)「文章構造における冒頭文と末尾文の統括機能と形態上の特徴—頭括型と尾括型の要約文の分析を通して—」『文藝言語研究言語篇』53, pp.33-49.

- 後藤利枝 (1996)「新聞投書の文章における叙述表現の形態的特徴と文章構造」『学習院大学国語国文学会誌』39, pp.31-40.
- 後藤利枝 (1998)「論説文の文章構造と見出しの反復」『日本女子大学大学院文学研究科紀要』5, pp.37-48.
- 後藤利枝 (1999)「新聞社説の中心文における文末述部の形態的特徴—尾括式文章の場合—」『ことば』20, pp.137-146.
- 鈴木英夫 (1989)「文章の構成」山口佳紀編『講座日本語と日本語教育 第5巻 日本語の文法・文体 (下)』明治書院 pp.84-116.
- 单艾婷 (2016)「新聞社説の見出しの日中対照研究—見出しの機能を中心に—」『地球社会統合科学研究』5, pp.33-40.
- 時枝誠記 (1977)『文章研究序説』明治書院
- 長坂水晶 (1994)「論理的文章における冒頭文の分類と機能」『言語文化と日本語教育』7, pp.14-25.
- 永野賢 (1983)「談話における叙述の構造」『談話の研究と教育 I』(日本語教育指導参考書11) 国立国語研究所 pp.63-90.
- 西田直敏 (1992)『文章・文体・表現の研究』和泉書院
- 林巨樹 (1983)「書き出しと結びの性格」中村明編『講座日本語の表現 5 日本語のレトリック』筑摩書房 pp.151-165.
- 半澤幹一 (2005)「文章の構成・展開」多門靖容・半澤幹一編『ケーススタディ日本語の表現』おうふう pp.168-173.
- メイナード・K・泉子 (1997)『談話分析の可能性—論理・方法・日本語の表現性—』くろしお出版
- 泉子・K・メイナード (2004)『談話言語学 日本語のディスコースを創造する構成・レトリック・ストラテジーの研究』くろしお出版
- 森本順子 (1994)『話し手の主観を表す副詞について』くろしお出版
- 王木林 (1992)《写好新闻评论的开头》《新闻与写作》6, pp. 8-9.
- 刘大保 (2000)《社论写作》中国广播电视出版社
- 马少华 (2005)《从传播效率的角度谈新闻评论的开头与结尾(上)》《新闻与写作》2, pp.42-43.
- 徐晶凝 (2008)《现代汉语话语情态研究》昆仑出版社

A Comparative Study of the First and Last Sentence in Japanese and Chinese Newspaper Editorials: Focusing on their Corresponding Relationship with Headlines

Aiting SHAN

This paper has gathered examples of the first and last sentence in Japanese and Chinese newspaper editorials, and analyzed their corresponding relationship to the headlines. A summary of the results has been provided below.

(1) There were three types of relationship observed between the opening and closing sentence. (A) Presentation of fact in the first sentence, and presentation of opinion in the last sentence, (B) presentation of opinion in the first sentence, and presentation of opinion in the last sentence, and (C) the posing a question in the first sentence, and answering the question in the last sentence. All three variants (A), (B), and (C) were seen in Japanese newspaper editorials, while only two (A) and (C) were found in Chinese editorials. This means that type (B), a format that sees the writer's opinion presented at the beginning and end of the text, was not found in Chinese newspapers.

(2) In terms of the relationship between the first sentence, last sentence and headline, there are many headlines seen with a (b) "a last sentence that specifies content", as well as alongside (d) "a first and last sentences that do not specify content". A much smaller number are seen with (a) "a first sentence that specifies content" and (c) "first and last sentences that specify content". The headline of a newspaper editorial often expresses opinions. As such, many headlines are seen with (b) "a last sentence that specifies content". In addition, headlines coupled with (d) "first and last sentences that specify content" were often found positioned just before the last sentence (in 80% of passages).

(3) Newspaper editorial headlines consist of two parts. The first focuses on the subject matter, while the second half consists of opinions and points of view. The first section presents the topic that is laid out in the opening sentence, leaving the latter to state the thoughts and views that appear in the last sentence.

(4) The print media, such as newspaper editorials have limited space on the page. In order to catch the eye and appeal to the reader, Japanese newspapers tend to place emphasis at the beginning of the article, while their Chinese counterparts tend to put stress on the end.

Key word: Newspaper Editorials, First Sentence and Last Sentence, Relationship with Headlines